

しんせう



第89号

2016年 9月 日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>

サンコウチョウの営巣

四日市市 笹間俊秋

4月も下旬になり鈴鹿の山々ではオオルリやキビタキなどの夏鳥が繁殖のため盛んに囀っていました。

以前から鈴鹿山麓の杉林へ続く林道があるのを見つけていたので時期を見て探鳥に行ってみようと思っていたので、夏鳥が騒がしくなるゴールデンウィーク中に行ってみることにしました。その林道は未舗装でゲートが設けられていて車も入れず歩いて行くしかありません。昔、そこは登山者向けの遊歩道でしたが数年前の豪雨のためがけ崩れで危険になったため迂回路が造られ、途中は何か人一人が通れるだけの道が確保されている状態で放置されている有様でした。そのため普段は人が通る気配もありません。

その様な道を進んで行くと杉林の中からいろいろな鳥の囀りや動物の鳴き声が聞こえてきます。そしてお目当てのサンコウチョウの鳴き声も聞こえてきました。すぐに周囲を探しましたが警戒心が強く姿を確認できず、その時は諦めて改めて訪れることにしました。

5月17日に再度訪れてみると以前よりサンコウチョウの鳴き声は多くなっています。杉林の中に入り高台から眺めてみると杉の間をサンコウチョウが飛んでいるのを確認し撮影することもできました。

後日、知り合いの方と待ち合わせてその場所へ観察にいきました。その時もサンコウチョウは杉林の中を忙しく飛び回っていてじっくり観察することが出来ました。すると一緒に行った方がサンコウチョウがある地点によくとまることに気が付き、もしかするとそこに巣があるのではないかと言うことでした。確かに注意深く観察すると頻繁にある枝付近にとまっています。しかし観察地点からは50mほど距離があり枝が多く確認できません。かと言って高いところで近づくことが出来ない場所であるため確認したくても出来ません。その時は巣があったらいいよねと話しながらその場所を後にしました。

その日の夕方、再度一人でその場所へ行ってみようと林道を歩いていました。巣がありそうだと言っていた付近に差し掛かった時、杉林にほんの少しだけ開いた隙間があり、その奥にサンコウチョウの雄がとまっているのが見えました。

目次	
サンコウチョウの営巣	2
表紙の言葉	2
営巣、育雛の観察と写真撮影について	4
コアジサシの島へ行ってきました	5
木曾岬干拓地鳥類生息調査報告(2016年)	6
初心者講座 タカ渡りを見よう	7
シギ・チドリ類の羽衣の変化	
第5回 オジロトウネン	9
金沢市普正寺の森宿泊探鳥会を実施	13
金沢市宿泊探鳥会に参加して	14
野鳥を録る楽しみ	14
県民の森の夏鳥	14
ヤマガラ・ドキドキ物語	15
事務局だより	16
四日市足見川メガソーラー計画について	17
繁殖記録の報告をお願いします	17
今後の探鳥会予定	17
野鳥記録	18
探鳥会報告	22
編集後記	24

表紙の言葉

秋のタカ渡り

田中豊成

秋の伊賀地方では、少数ながらサシバやハチクマの渡りが見られます。伊良湖崎から伊勢へと渡る本コースからは、やや北に位置するのが大きな理由でしょう。近年、伊良湖ルートでサシバの渡る数が減少をしていると聞いております。それでも、9月後半になると微かな期待をもって、近くの山地等の出かけてしまいます。

最近では、名張から20km南の所にある、「みつえ高原牧場」に出かけることが多くなりました。3年程前から野鳥の会の探鳥会も行っております。昨年行った探鳥会では、サシバが337羽見られました。こんなことは、伊賀近辺では、初めてのことでした。数十羽が舞うタカ柱や、次から次へと渡る勇壮な姿を見ると、自然って素晴らしいものだといつも感心してしまいます。

これはシャッターチャンスとばかりに撮っていると突然飛んでしまい、無駄な写真を撮ってしまったなどと思いながら確認してみると最後の1枚はサンコウチョウのとまっていた枝に作りかけの巣が写っていました。あまりの偶然に言葉もありません。すぐに一緒に行った方に巣を見つけたと連絡しました。その場所は巣から50mほど離れている上に、他の人に教えても小さすぎて望遠で拡大しても初見では誰も容易に確認できませんでした。それが幸いサンコウチョウも人を警戒する気配もありませんでしたので観察するには申し分ありませんでした。しかし場所が知れ渡ると大勢が押しかけ大変なことになるのは今年のユキホオジロの件で分かっていたので極力信頼を置ける方以外には教えない様にしました。



5月20日撮影 作りかけの巣

この時見つけた巣はまだ数センチの高さで、作り始めたばかりの様です。これはサンコウチョウの繁殖を記録するには絶好の機会です。しかしあまり刺激して放棄されては元も子もないので観察に適したこの場所はビデオを設置して録画することにしてカメラでの撮影は極力抑えるようにしました。こうしてこの日から観察記録のためにこの場所へ通うこととなります。ここの林道は林業関係者の方1名が伐採に訪れるだけなのと、車を止めてから歩いて辿り着くには30分近くも山道を歩かなければならないのが幸いし、私の知り合いの方以外には逢うことはありませんでした。

5月20日より本格的に観察を開始しましたが、サンコウチョウはつがいそれぞれ巣材を探して運びます。間隔はおおよそ30分置きで真ん中に座り巣材を周囲に盛り付けていきます。おそらくこの時に体に付着させたくもの糸などを擦り付けて接着剤のように固めていた様でした。巣作りの初期は雌雄とも同じ割合で巣材を運んでいて最初は気づきませんでしたが、周囲の杉の横枝の

皮を嘴ではがし巣材として運んでおり最後には多くの杉の枝が綺麗さっぱり剥かれていました。

5月26日、巣作りを始めて約1週間が経過すると雌の割合が多くなってきました。やはり最後の仕上げは雌の役割のようで雄は次第に巣材運びよりも周囲の縄張りを守ることが多くなりました。

5月28日、録画したビデオには巣の目の前にカラスが現れ眺めているのが確認され、その時は何もせずに立ち去りました。5月30日には巣がほぼ完成したようで巣材運びもなくなりサンコウチョウは2日ほどあまり姿を現しませんでした。結局、巣作りに関しては5月19日から数日前より作り始めており12日以上、おそらく15日程度かかっていたようです。

6月2日になり巣の中に座るサンコウチョウが確認でき、おそらく姿を現さなかった時に交尾をして卵を産む準備をしていたようです。この時は雌雄同じ割合で巣に座り卵を温めているようでした。交代は直接顔を合わせることは無く近くで鳴き声がすると巣から飛び出し5分から10分前後巣は留守の状態になりますがしばらくすると周囲を警戒しながら交代で巣に座るという繰り返しました。大体温めている時間は雄で20~30分。雌で40分~1時間とやはり雌の方が長いようです。しばらくすると巣にいる割合は雄1に対して雌2ぐらいになっていきます。雌は雄がなかなか帰って来ない時は我慢できないといった仕草でたまらず巣を出て行ってしまい30分ほど巣が放置され、また雌が急いで帰ってきて卵を温めるということがよくありました。雄は餌を探しながら自分たちの縄張りを見張る様に周回しているようです。それに対して雌は餌を捕りに出るだけであとは卵を温めることに専念しているようでした。そうして約2週間近く抱卵が続き終盤には、ほとんど雌が抱卵するようになり食事の時だけ雄に代わっている状態になっていました。

6月18日に観察に訪れると変化がありました。雌は相変わらず巣に座って温めていましたが雄に交代することが多くなります。しかし雄は巣には座ろうとせずに雌が帰ってくるまで巣を見張っているような仕草です。そして雌が交代すると巣の中に嘴を突っ込み何か与えている様な仕草をしてから静かに座ります。巣は高い位置にあり中の様子は分かりませんでしたが、いよいよ待望の雛が孵ったようです。抱卵期間は6月2日より17日まででしたので、雛は15日で孵化したようです。



巣材運び 5月26日撮影



巣とオス親 6月21日撮影

6月20日には巣から餌を求める雛の口が見える様になり両親は忙しく餌を探しに行つては与えるため巣を留守にすることが多くなりました。この時、雄は雛に餌を与えるとすぐまた探しに行きますし雌は餌を与えるとしばらく巣に座つて雛たちを温めた後、また餌を求めて飛び立ちます。

6月21日になると雛たちは元気に頭を上げてねだるように口をあけて親たちの帰りを待ちます。巣の中には3羽の雛がいることが確認できました。雛の成長は早く、もう雌も温める必要が無いのか両親は餌探しに奔走し10分ごとに餌を運んできます。雛の成長具合からこの分だと1週間以内には巣立ちを迎えそうだと思います。

そして6月22日になり林道を歩いて向かっていると周囲でやたらカラスの音が聞こえます。いやな予感がしつつビデオをセットしました。その日、家に帰ってから録画したものを確認してみると、前日まで頭を出していた雛の姿がありません。しばらくすると親がやってきましたが、やはり雛

が巣から顔を出す様子も無く親もどこに行ったのだろうと言う感じであたりをきょろきょろするだけでくわえていた餌を飲み込み飛び去っていきました。それを何度か繰り返していましたが、やがて諦めたのかそれっきり現れなくなっていました。

この日、知り合いが早朝7時ごろには雛と親の給餌を確認しているので、おそらく私が到着する直前にカラスに襲われたのだと思います。どうやら巣の位置を知っていたカラスは雛が成長して食べごろになるのを待って親が餌を探しに行っている隙をついて襲ったようです。翌日、一縷の望みを託して見に行きましたが残念ながら2度とサンコウチョウがその巣に現れることはなく繁殖は失敗に終わりました。

6月下旬に日本野鳥の会の安西英明氏の講演会が名古屋で開催された時に研究資料として活用してもらうために録画したビデオをお渡ししました。後日メールをいただき繁殖失敗の原因を指摘していただきました。

安西氏によれば、繁殖場所として本来ならば不安定でもっと暗く閉じた場所に営巣するべきところを、カラスが発見しやすい明るく開けたところに安定した枝で巣を作った事により、リスなども容易に接近できる状態であり天敵をまったく排除できない作りだったことが最大の失敗原因ではないでしょうかということでした。

確かに普通ならば営巣場所は容易には発見できない場合が多いのに偶然とは言え私が見つけてしまうと言う事はカラスにも容易であったことでしょう。残念ながらこのサンコウチョウのつがいは繁殖経験が足りなかったようです。来年は無事繁殖を成功させて命を繋いでほしいと思います。

=====
営巣、育雛の観察と写真撮影について

今回の笹間氏の記録は巣からかなり離れた地点からの撮影、観察であり、サンコウチョウの営巣にほとんど影響の無いと考えられます。この観察とビデオ撮影により、巣作りの日数。作巣の雌雄の分担、抱卵の分担、繁殖失敗の原因など興味ある知見が得られています。当会ではむやみに巣や雛の写真撮るべきではないと考えますが、重要な知見を得るため、あるいは研究目的のためには許されるであろうと考え、掲載することにしました。

この点について会員諸子の意見をお聞かせいただければ幸いです。 編集部 平井正志

コアジサシの島に行ってきました。

伊賀市 武田恵世

コアジサシが昨年から三重県伊勢市の宮川河口の中州で繁殖しているのを、調査に行ってきた。

1. コアジサシとは

コアジサシは冬は東南アジアで越冬し、日本に渡来して繁殖する夏鳥です。ツバメのような姿で翼の先が尖っていて、尾も二股に分かれています。ツバメより大きく、白く、ゆっくりと飛びます。

初夏に広い砂浜や河原などの裸地で集団で繁殖します。コチドリやシロチドリと違って、1つがいだけではまず営巣しません。全国的にダムや井堰が増えて、河川の砂礫の流下が大幅に減ったので、海岸浸食と河川の洗掘が進み、広い河原も砂浜も減ってきました。そのため、繁殖する場所が限られてきて、絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危機が増大している種類）に指定されてしまいました。

保護対策としては、東京都では下水処理場の屋上を営巣地に提供しています。世界的にも減少しており、アメリカではショッピングセンターや学校の屋上を提供している例もあります。裸地なら砂漠があるじゃないか？三重県でももっと南に行けば熊野川あたりに広い河原や砂浜があるじゃないか？と思っても、そこではなぜか営巣しない習性を持っているようです。

2. コアジサシの島に上陸

7月3日、事務局の西村泉さん、小坂里香さん、杉原豊さんと満潮の時間を選んで午後の上陸しました。渡船は会員の世古口有司さんのご厚意で特別にお願い出来ました。この島はまとめて大洲と呼ばれるくらいで特に名前がないということなので、取り合えず、大きい方を宮川河口「ミサゴ大島」（冬にはミサゴが多いため）、沖の小さい方を「宮川河口コアジサシ島」と名付けてみました。もっと良い提案があればお知らせください。

コアジサシは集団で営巣して、集団で防衛します。外敵には蹴り、つつき攻撃、糞爆弾投下などで追い払います。研究者の皆さんの印象では、おおよそ3ha以上で、植被率が30%以下の裸地に、500羽以上が集まると繁殖成功率が高まるということです。ここには成鳥約3,500羽が集まっており、幼鳥が約190羽、卵のある巣が約150確認出来ましたので、まずまずの成功率と言えそうです。

3. 三重県のコアジサシ

かつて1950年代までは、伊勢湾の砂浜や各川の河原が今より広がったので、あちこちで繁殖していたのですが、その後広い砂浜や河原が減ってきて、松阪港建設中はその埋立地に、長良川河口堰建設中はその排砂地に、次いで長島温泉の駐車場に、四日市港の霞埠頭の工事中はその造成地に、津市安濃川志登茂川河口の鐘紡の工場跡地が整地された時にはそこに、四日市市富田のイオンシティー造成工事中はそこに、と広い裸地を求めて放浪していました。また、愛知県の伊勢湾岸では、中部新空港造成工事現場、名古屋港の稲益埠頭の更地などに営巣していました。三重県でも保護対策が試みられ、長良川の上阪手の高水敷で裸地を造成しましたが、野犬の群に毎日餌をやる人が現れ、営巣しませんでした。雲出川河口の砂州でもデコイを置いて誘致を図りましたが、同じ時期に四日市港の霞埠頭に広い裸地ができたので、こちらにはあまり来ず、その内に植生に被われてきました。長年放浪を繰り返していたコアジサシですが、ここしばらくはこの2つの島で集団営巣出来そうです。



4. コアジサシの集団営巣の脅威

コアジサシの集団営巣の脅威は、気象関係では増水と高波、天敵としてはカラス、トビ、タヌキ、キツネなどが主なものです。ここでは、ミサゴ大島にはタヌキの足跡があり、クロトウゾクカモメが1羽いました。クロトウゾクカモメは1977年頃四日市市の吉崎海岸で私と前澤昭彦さんが確認してから県下で2例目と思われます。タヌキは泳いで来ているようです。コアジサシ島には足跡がなかったもので、そこまでは行ってないようです。ミサゴ大島には外来種のヌマズギが生えてきており、これが成長し陸化が進むと、裸地が減り営巣

表 2 木曾岬干拓地ねぐら調査結果(2002年～2016年)

年	2002		2003			2004	2005		2006	2007	2008	2009	
月	2	12	1	2	12	12	1	12	12	11	12	1	12
日	13	7	18	15	12	18	28	10	16	24	20	17	19
チュウヒ	16	27	35	19	27	16	14	22	20	12	12	9	15
ハイロチュウヒ	2	6	4	4	3	2	2	2		2	1	1	2
コチョウゲンボウ	4	44	25	29	22	8	8	6	6	18	6	9	1
チョウゲンボウ													
オオタカ	1		1	2		2		2	2	1	2	1	1
ハイタカ						7		1					
コミズク								1					
ノスリ		3	1	1	1	2	3	3	4	5	6	9	3
ミサゴ	3	10	9	3	4	6	4	7	9	7	8	10	5
ハヤブサ					1	1		1	1				
種数	5	5	6	6	6	8	5	9	6	6	6	6	6

表 2 木曾岬干拓地ねぐら調査結果(2002年～2016年) 続き

年	2010		2011		2012		2013		2014		2015		2016
月	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1
日	16	18	15	17	21	15	19	20	18	20	17	18	16
チュウヒ	7	24	22	8	11	10	15	5	13	5	7	17	13
ハイロチュウヒ	3	1	6		3	1	2		1		2	2	1
コチョウゲンボウ	2		5	1	6	9	10				2		
チョウゲンボウ			1								1		
オオタカ	1			1	1	1	1		2		1		
ハイタカ													
コミズク													
ノスリ	5	3	4	5	1	2	1		1			1	1
ミサゴ	5	2	5	4	8	7	5		5			4	3
ハヤブサ				1		1					1		
種数	6	4	6	6	6	7	6	1	5	1	5	4	4

+++++
初心者講座

タカ渡りを見よう

津市 平井正志

秋はサシバやハチクマの渡りのシーズンである。多くのタカが南へ渡る壮大なドラマを見るチャンスである。タカ渡りの探鳥会に参加してみよう。むろん、タカ渡りでは天候に大きく左右され、一羽も飛ばないハズレもありうる。運が良ければ、多くのタカが集団で渡るのがみられる。

当会では今年もいくつかのタカ渡り探鳥会が予定されている。これに出席するのが一番とっとり

ばやい手である。リーダーも初心者には丁寧に教えてくれるであろう。

今年の当会のタカ渡り探鳥会は次の通り計画されている。詳細は行事案内かホームページを参照されたい。

- 9月24日 多度山タカ渡り探鳥会、
- 10月1日 伊勢タカ渡り探鳥会
- 10月2日 みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
- 10月8日 相津峠タカ渡り探鳥会

県外でのタカ渡り観察ポイントとして有名なのは愛知県伊良湖岬である。思い切って、伊良湖岬

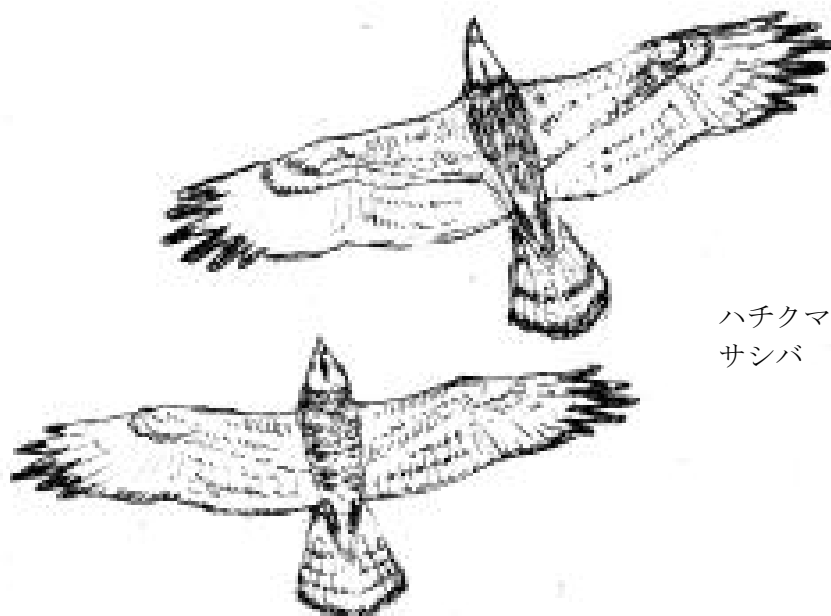
へ出かけるのも良いかもしれない。むろん、伊良湖であっても当たり外れがあり、悪天の場合はほとんど飛ばない。しかし、渡るタカの数が多い。うまく、多数のタカの飛ぶ日に当たれば伊良湖岬では数百から1000羽以上のタカを見ることができる。シーズンには伊良湖岬の駐車場にタカ渡りファンが大勢来る。夜中に車を飛ばして伊良湖岬駐車場まで行き、朝駐車場から見る。あるいは伊良湖岬付近のホテル、民宿で1泊して朝に備えるのがよかろう。5時40分くらいから飛び始めるはず。頭上を多くのサシバ、ハチクマが飛ぶ。その他、近隣では長野県、乗鞍岳東側の山麓の白樺峠もタカ渡りで有名である。

サシバとハチクマ

タカが来たら、種を判別しよう。サシバが一番多いのだが、まず、トビではないことを確認する。

サシバなら尾羽の形、羽の色、大きさすべてでトビと違う。さらに動きではサシバはやわらかに翼を打ち下ろす。トビはバサバサとやや硬い動きである。

三重県での渡りでもまた、伊良湖岬でもサシバの他にハチクマも渡る。同じく渡るハチクマとサシバの違いはもっと難しい。両方が一緒に出てきた時は識別点を確認するチャンス。ハチクマは、首が細く見え、また、羽の幅（前縁から後縁まで）がやや広い。ハチクマの方がやや大きい、飛ぶ高さが違うと比較はむずかしい。図鑑などを参照しながら、識別にトライしよう。それ以外にノスリ、ハイタカ、ツミ、チゴハヤブサなども少数は渡る。これらの種はサシバ、ハチクマの渡りよりやや遅れて渡り、10月中旬以降に多くなるが、はっきりとした集団にならない事が多い。



ハチクマ 上
サシバ 下

サシバについて

サシバは東北以南で繁殖し、秋に南へ渡り、主として東南アジアで越冬する。少数は沖縄でも越冬する。

渡りの最大の難所は沖縄本島から宮古島まで、海上約300kmの渡りである。途中で岩礁すらない。ひたすら自力で飛ぶしかない。宮古島にたどり着いたサシバは人が手で捕まえられるほど疲労しているという。無論、途中で体力を使い果たし、着水し、命を落とすサシバも多いことであろう。

県内で渡りが見られる場所があるが、県内をどのようなルートで渡っているのかははっきりしない。風向きによりルートも変わるらしい。したがって、これまでに知られていないルートが今後発

見される可能性もある。サシバの三重県内の渡りについては会報「しろちどり」72号(2012年7月)に詳しく報告されており、当会のホームページから閲覧できる。

残念ながら、タカ渡りの主役サシバは減っている。環境省のレッドリストでは危急種(VU)に指定されている。三重のレッドリストでは1ランク高い、絶滅危惧種(EN)である。三重県内でも繁殖している数は減少している。サシバは主としてカエル類などを捕食するのだが、山あい水田が減り、また、水路がコンクリート造りになり、カエルそれ自体が減っている。その上、巣を架けるのに都合のよいアカマツが減った。三重では最近、四日市のサシバの繁殖地にソーラーパネルを設置

する計画が持ち上がっている。

ハチクマ

ハチクマはクロスズメバチなどの巣を襲い、ハチを食べるタカ。ハチクマは三重県内でも繁殖しているが、実態はあまり知られていない。県内での渡りはサシバと共に観察され、別のルートがある

との話を聞かない。最近日本から越冬地までの渡りのルートが衛星追跡により明らかにされた。それによると、九州から東シナ海を横断し、直接中国大陆へ渡るルートを取るとのことである。すなわち、琉球列島は通過しないようである。

=====

シギ・チドリ類の

年齢・季節による羽衣の変化

一連載第5回 オジロトウネン

津市 今井 光昌

オジロトウネンは旅鳥で三重県では春と秋に少数が渡来し、越冬するものもいます。大きな群れを見ることはなく、数羽単位の小さな群れで行動しています。水田や河川の岸で見られ、河口干潟や砂浜などで観察されることはまずありません。ま

た、トウネンの群れに混じって行動することは少なく、同じ水田にトウネンがいても、オジロトウネンは別行動していることがほとんどです。同じ小型シギのグループに属するヒバリシギやトウネンとは羽模様以外に体形の違いから見分けられます。ヒバリシギは頸・足が長くほっそりした体形で、オジロトウネンは頸・足が短い、胴長短足のずんぐりした体形です。同じずんぐり体形のトウネンは足が黒く、オジロトウネンは黄緑色です。



図1 幼羽 2014.09.27



図2 第1回冬羽 2015.02.02



図3 成鳥冬羽 2010.01.05



図4 成鳥夏羽 2015.05.08

オジロトウネンの羽衣の変化

オジロトウネンは夏羽以外、上面の灰褐色味が強く、しかも体が小さいため、小型シギの中で最も地味なシギという印象が強い。夏羽の上面には赤

褐色の羽縁と黒色の軸斑があり、灰褐色の冬羽と比較すると鮮やかな羽色になります。ただ、三重県では5月まで滞在することは少なく、完全な夏羽の羽衣を観察できることは少ない。



図5 幼鳥 2014.10.02

上面は灰褐色で背・肩羽・雨覆・三列風切に白色ないし淡色の羽縁があり、その内側にある黒褐色のサブターミナルバンドが目立ちます。幼鳥と成鳥冬羽の頭部から胸は淡い灰褐色です。



図6 摩耗した幼羽 2014.10.25

図5の上面の明瞭なサブターミナルバンドが摩耗により消失してきています。肩羽の一部に灰褐色の冬羽が出ているように見えます。



図7 第1回冬羽 2015.02.02

肩羽は灰褐色の新羽（冬羽）に換羽しています。肩羽と雨覆の一部にサブターミナルバンドが残っていることから、成鳥冬羽でなく第1回冬羽と判ります。



図8 第1回夏羽に換羽中 2012.04.05

背・肩羽・雨覆の形の崩れていない灰褐色の羽は冬羽ですが、激しく摩耗した幼羽が雨覆・三列風切に残っています。肩羽に黒褐色の夏羽が出始めていることから第1回冬羽から第1回夏羽に換羽が始まっていると判断できます。



図9 成鳥冬羽 2010.01.05

成鳥冬羽は頭上からの上面が灰褐色で胸も灰色味を帯び、全体が地味な羽色です。幼鳥の上面・胸もほぼ同色ですが、幼鳥の上面には黒褐色のサブターミナルバンドがあるため、成鳥冬羽の方が全体的により淡い灰褐色に見えます。



図10 成鳥夏羽に換羽中 2010.04.13

背・肩羽は冬羽ですが、雨覆と三列風切に褐色で黄橙色の羽縁のある夏羽が出ています。シギ類は背・肩羽から夏羽への換羽が始まることが多いのですが、この個体は雨覆・三列風切から夏羽への換羽が始まっています。



図11 成鳥夏羽に換羽中 2010.04.20

夏羽への換羽が図10より進んでいます。雨覆・三列風切の褐色で黄橙色の羽縁のある夏羽だけでなく、背・肩羽にも黒色と橙色の斑のある夏羽が出ています。胸側も淡い橙色味が出てきています。



図12 成鳥夏羽 2015.05.08

夏羽は頭部からの上面が灰褐色で、黒い軸斑と淡い橙色の斑があり、雨覆は褐色で黄橙色の羽縁があります。胸は灰褐色で淡い橙色味を帯びます。



図 13 成鳥 摩耗した夏羽 2015.07.30
 摩耗した夏羽後期の成鳥の渡来は珍しく、5月のフレッシュな夏羽の羽衣からは想像しづらい羽模様です。摩耗により橙色の斑が消失し、肩羽に夏羽の黒い軸斑だけが残っています。



図 14 成鳥冬羽に換羽中 2009.08.18
 肩羽に夏羽の黒い軸斑が残り、灰褐色で細く白い羽縁のある新しい冬羽が出てきている、夏羽から冬羽に換羽初期の羽衣です。7~8月の夏羽が摩耗した成鳥は同時期のトウネンやヒバリシギ成鳥の摩耗した羽模様とよく似ています。

最後に
 名前の由来はオジロ（尾白）で、名前からだとも尾羽が全て白い印象を持ちますが、図 15 のように全ての尾羽が白いわけではなく、中央尾羽は黒褐色、その外側は淡い褐色で、白いのは外側 2 対だ

けです。ヒバリシギやトウネンの外側尾羽は全て灰褐色で、図 16 のヨーロッパトウネンも灰褐色です。尾羽の一部が白いトウネン、それがオジロトウネンです。尾羽が完全に開いていない状態では、名前由来の尾白のイメージは浮かびません。



図 15 オジロトウネン



図 16 ヨーロッパトウネン

金沢市普正寺の森宿泊探鳥会を実施

桑名市 近藤義孝

5月14日(土)と15日(日)に「金沢市普正寺の森宿泊探鳥会」を実施しました。日本野鳥の会三重では、2009年に湖北バスツアー(日帰り)、2010年に岡山県プッポウソウ観察旅行(1泊2日)を実施しました。それ以来のバスを使つての探鳥会です



石川県片野鴨池、河北潟干拓地、高松海岸、普正寺の森(健民海浜公園)などへ行きました。参加者は募集人員45名(最低実施人員25名)に対して30名の参加でした。片野鴨池は、加賀藩のカモの狩猟場でわずかな狩猟しか行われず、保護されていたため今でも多くのガンやカモが飛来する地となっています。河北潟は、かつて大きな汽水湖でしたが、干拓事業で大部分が農地になったところです。残った水面は今は淡水になっています。また、チュウヒが繁殖していることで有名です。高松海岸は、日本海に面した内灘砂丘につながる砂丘です。普正寺の森は、金沢市中心市街地からは離れた健民海浜公園の中にあります。

昨年の理事会で、宿泊探鳥会をできたら続けて実施したいということで、各地区が順に担当することになりました。まず、北勢地区が担当になりました。9年前に北勢地区の有志で行った普正寺の森に行き、54種を観察できました。そこで、今回はこちらに行こうと決まりました。

普正寺の森では、日本野鳥の会石川も定例探鳥会を行っています。河川改修のため、石川県が普

正寺の森を削って犀川を拡張する計画があります。犀川は、白山山系を水源とする金沢市内を流れる二級河川です。河川改修によって貴重な鳥類の生息地が失われるため、日本野鳥の会石川では「普正寺の森河川工事対策委員会」を立ち上げています。このこともこちらの場所を選んだ理由です。



河北潟・高松海岸の案内を中川富男さんをお願いしました。中川さんはチュウヒサミットなどで日本野鳥の会三重と交流のある方です。中川さん夫妻と日本野鳥の会石川の中村副代表の案内で、ミユビシギ、ハマシギなどの大きな群れを見ることができました。また、海岸の砂の中にたくさんのエビ(ヨコエビの仲間)がいるのを実際に掘って見せてもらい、嘴を砂地に差し込むだけで餌を採取できることが理解できました。



普正寺の森では、日本野鳥の会石川の青山代表など6名の方に案内をしていただきました。河川改修工事についても説明を聞きました。参加者の感想を宮本英子さんに書いてもらいました。また、日本野鳥の会三重のHPに写真がたくさん入ったレポートが掲載されています。

ヤマガラ・ドキドキ物語

浜島町 濱屋勝則

梅雨の中休みを思わせる、ある天気の良い日。伊勢市五十鈴公園へ野鳥撮影に出かけました。五十鈴公園は、カラ類などの留鳥が間近で観察できるので、思い入れのあるフィールドです。

今回もたくさんの野鳥の囀りが聞こえ、どの鳥から狙ってみようかと思っていた目の前に、1羽のヤマガラの幼鳥が舞い降りました。そばには、丸々としたイモムシがポトリ…。おそらく、ヤマガラがこれから食べようとして、木の上から誤って下に落としてしまったのでしょう。

カメラのレンズ越しに移った光景は、まさにヤマガラ VS イモムシ。

まいと固唾を飲んで見守りました。

若いヤマガラは、経験不足からか見ている時間が長かったものの、イモムシをくちばしで触ったり、突っついたり…。イモムシも負けてはいませんでした。体を丸めたり、伸ばしてみたり、ヤマガラを驚かせます。

そんなやりとりが何分か続き、ついにラストシーンを迎えました。最後はお腹が空いたヤマガラが、何とかイモムシをくわえ飛び去ったのですが…。

ところが、ヤマガラは近くを通りがかった人に驚いて、せっかくくわえたイモムシを落としてしまいました。それから、ヤマガラはイモムシを探しに戻ることはなく、イモムシも行方知れずになってしまいました。

次に何が起こるのか？このあとのシーンを見逃す



おい まるまって
ついに観念したか？



まったく
世話がやけるやつ



そう そう
おとなしくしとけば
いいんだよ



おら よっこらしよ
おもいなあ..



=====
事務局だより 活動の記録 (2016年5月～8月)

- 5/7 志摩町へ (ツバメの営巣について)
- 5/16 鳥羽市安楽島のソーラー開発地を視察
- 5/29 2016年度日本野鳥の会三重総会・野鳥講座を行った
- 5/30 鈴鹿市へ (ツバメの営巣について)
- 6/5 大台町へ (ツバメの営巣について)
- 6/5 足見川ソーラー予定地調査打ち合わせ
- 6/8 会報・第88号「しろちどり」発行・発送作業
- 6/11 足見川メガソーラー事業予定地でサシバ調査実施・
- 6/13 「四日市足見川メガソーラー事業環境影響方法書」についての意見書を送付
- 7/3 宮川河口コアジサシ調査へ
- 8/1 足見川メガソーラー事業について県・四日市市へ申し入れ(要望書)を手渡し、
会社へは送付した また、同日記者会見を行った

四日市足見川メガソーラー計画について

津市 平井正志

四日市の山手、小林町、山田町、および波木町の足見川左岸（北岸）の山林約 100 ha にメガソーラー計画があり、現在県条例による環境アセスメントが進められている。事業主は東京の会社（代表者 金田直己氏）であり、同社は四日市桜町にも同様なメガソーラー計画を進めている。

当会の調査でここ、足見川左岸（北岸）の山林がサシバの繁殖地であることが明らかになった。当会会員による観察で、2016年6月初旬からサシバつがい観察され、餌運び、営巣場所へ侵入した猛禽への威嚇などが観察された。残念ながら、幼鳥は確認されなかった。この地域では2009年および2013年にもサシバが観察されており、永続的な営巣地であると判断された。また、6月下旬にはオオタカつがいによる採餌（狩り）も観察され、周辺で繁殖するオオタカの狩場となっていると想定された。当会は8月1日、三重県知事、四日市市長に対し、この地域を保全し、メガソーラー計画をやめさせるよう、要請した。また、会社にも同趣旨の申し入れを行った。この内容は同日三重県庁記者クラブで記者会見を行い明らかにした。毎日、読売、中日、伊勢の各紙が取り上げ、翌日朝刊に掲載された。

四日市環境保全審議会

2016年8月16日、四日市市役所で行われた四日市市環境保全審議会を数名の会員が傍聴した。市長の諮問により（H28/5/10）足見川メガソーラー事業に係る環境評価方法書に対する意見について、専門部会が過去2回の審議を経てまとめた意見書の審議が開催された。

大気・景観・地形などの他生態系に関する要望の説明があった後、当会からの要望書に対し審議された。その結果、陸生生物の項に「サシバ・オオタカなど猛禽類の生息が確認されており環境保全を考慮すること」の追加があったものの、当会が強く要望している事業の中止に関しては、委員の一人から「野鳥の会からの要望書で予定地は猛禽の繁殖地であるとされている。予定地の半分は残すか建設を中止するようにしてはどうか」との提案があった。しかし委員会ではこの点を議論せずに終わった。環境保全審議会が当会の要望をまともに論議できないのは残念である。何のための審議会であろうか。

~~~~~

## ■ 繁殖記録の報告をお願いします

当会は全国鳥類繁殖分布調査に参加しており、「三重県下の繁殖調査」を行っています。夏も終わり今年の鳥たちの繁殖シーズンも終わりました。この時期に、巣立ち直後のヒナなど、繁殖の様子を目撃された方はぜひこの調査にご協力願います。以下のいずれかの方法で調査報告できます。

- ・野鳥の会三重のホームページから(右横のバナー[繁殖調査]から)、繁殖調査報告サイトを開いて[繁殖データ登録フォーム]に入力
- ・しろちどり 88号に同封されていた「繁殖記録用紙」に記入の上郵送(詳細は用紙に記載しています)一定量のデータが集まればその状況を紙面に公開予定ですが、まだまだとても少ない状況です。

~~~~~

今後の探鳥会予定 (詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください)

- 9月24日(土) 多度山タカ渡り探鳥会
開催地/桑名市 多度山3合目 集合/9:00 多度山登山口駐車場
- 9月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。
- 10月1日(土) 香良洲海岸探鳥会 小雨決行!
開催地/津市香良洲町 香良洲海岸・雲出川河口左岸 集合/13:00 香良洲公園駐車場
- 10月1日(土) 伊勢タカ渡り探鳥会 小雨決行!
開催地/伊勢市 伊勢やすらぎ公園 集合/7:00 やすらぎ公園納骨堂前
- 10月2日(日) みつえ高原牧場タカ渡り探鳥会
開催地/奈良県宇陀市御杖村 みつえ高原牧場 集合/8:00 近鉄名張駅西口付近
- 10月2日(日) 市木川及び田んぼ探鳥会
開催地/南牟婁郡御浜町 市木 集合/9:00 道の駅「パーク七里御浜」

- 10月8日(土) 相津峠タカ渡り探鳥会
開催地/松阪市飯南町 相津峠 集合/8:30 道の駅「茶倉」駐車場
- 10月23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。
- 11月6日(日) 中村川探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市嬉野一志町 中村川中流域
集合/9:30 近鉄中川駅西口 又は サークルK 駐車場
- 11月23日(水・祝) 海蔵川探鳥会 小雨決行! 内容は、5月10日(火)と同じです。
- 11月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。
- 12月4日(日) ベルファーム探鳥会 小雨決行!
開催地/松阪市伊勢寺町 松阪市農業公園ベルファーム
集合/9:30 ベルファーム 匠の館前
- 12月11日(日) 員弁川探鳥会
開催地/いなべ市員弁町 員弁川周辺 集合/9:00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場
- 12月17日(土) 身近な冬鳥を観察しよう 申し込みが必要です。
開催地/津市 三重県総合博物館周辺の溜池 集合/三重県総合博物館
- 12月18日(日) 磯部川水系探鳥会 小雨決行!
開催地/志摩市磯部町穴川 穴川～迫間～下之郷
集合/9:30 志摩市磯部町穴川公民館
- 12月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行! 内容は、4月24日と同じです。

野鳥記録 (2016年05月11日から08月10日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察月日 (2016年)	観察場所(三重県)	雄/雌/などの の区別	記録報告者 名	脚注
コホオアカ	1	3月17日	四日市市西日野町		阿部 裕	1
チゴハヤブサ	1	4月30日	三重県民の森		阿部 裕	2
亜種マミジロツメナ ガセキレイ	4	5月5日	御浜町市木水田		中井 節二	3
カラムクドリ	1	5月5日	御浜町志原新造平	雌	中井 節二	4
ヒバリシギ	3	5月13日	御浜町市木水田		中井 節二	5
アカガシラサギ	1	5月13日	御浜町志原		中井 節二	6
オウチュウ	1	5月13日	御浜町市木水田		中井 節二	7
ヒメウ	1	5月26日	熊野市親地町脇浜		中井 節二	8
ハシボソミズナギドリ	3	5月26日	熊野市有馬町羽市木海岸	たぶん幼鳥	中井 節二	9
アカガシラサギ	2	5月5日	御浜町市木水田及び川	成鳥夏羽	中井 節二	10
クロトウゾクカモメ	1	7月3日	伊勢市宮川河口左岸		小坂 里香	11
オオコノハズク	1	7月16日	松阪市飯南町		西村 四郎	12
サシバ	2	6月5日	四日市市	成鳥 雌雄	安藤 宣朗	13

注:

- 1: 3月11日に報告者の家族が初認している
- 2: 旋回しながら北の方向へ消えていった
- 3: 1度に4羽見れたのは初めてです、5月3日にも1羽来ていました
- 4: 頭が白かった、目が画像では見にくいですが灰色です。シベリアムクドリとかコムクドリは黒い、この時期時々見えています、カラムクドリは写真の左端
- 5: 春にヒバリシギは今回で2回目の記録ですが、3羽は珍しいと思います

- 6: 嘴の先端が黒かった、冬羽みたいだった
- 7: 全身が黒かった、新宮市の浜口様が見つけれられました、その日だけでした
- 8: 全身が黒く目の付近に赤い斑点があった、飛べないようでしたが、2日間見られました
- 9: ハイイロミズナギドリかもしれないが、数が3羽見居たのでハシボソミズナギドリと思われる
- 10: 5月27日だけ2羽居ましたが、それ以降1羽しか見れませんでした。アカガシラサギが2羽1度に来たのははじめてである、画像では見難いが2羽止まっています
- 11: コアジサシコロニー付近を飛び回っていた、卵やヒナなどを捕食していたと思われる
- 12: 羽根 (P5 一枚) を拾い色・大きさを確認、「羽・原寸大写真図鑑 (高田勝、叶内拓哉)」で確認
- 13: 中型のタカ類で喉に黒いさい線がある、この時期雌雄が旋回や樹木にとまっていたので繁殖の兆しがありそう



コホオアカ 阿部 裕：撮影



亜種 マミジロツメナガセキレイ
中井節二： 撮影



チゴハヤブサ 阿部 裕：撮影



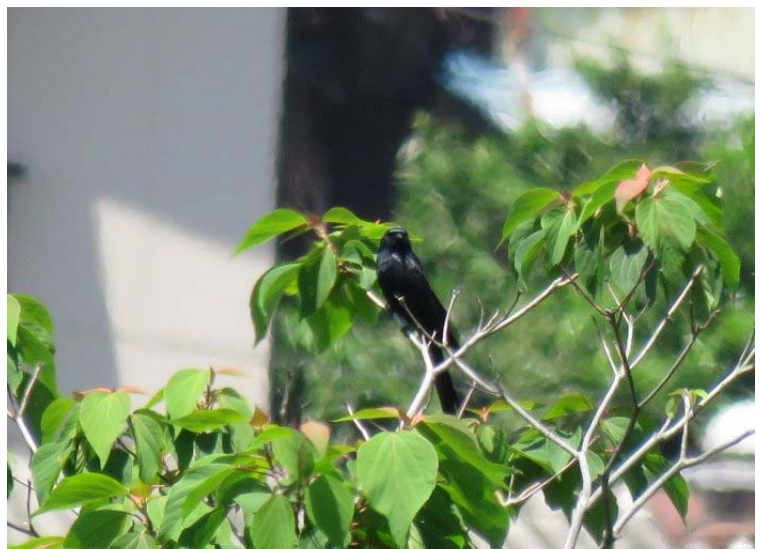
カラムクドリ (左端) 中井節二： 撮影



ヒバリシギ 中井節二： 撮影



アカガシラサギ 中井節二： 撮影



オウチュウ 中井節二： 撮影



ヒメウ 中井節二：撮影



ハシボソミズナギドリ
中井節二：撮影



アカガシラサギ（成鳥夏羽）
中井節二：撮影

クロトウゾクカモメ 小坂里香：撮影





サシバ 安藤宣朗：撮影

探鳥会報告 (2016年5月～7月)

● 瀬戸林道探鳥会

2016年5月1日(日) 9:10～12:00

津市美里町桂畑 瀬戸林道

奥山 正次 石原 宏 参加者23名

(会員17名)

トビ、クマタカ、カケス、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、ミソサザイ、コムクドリ、カワガラス、キビタキ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ 計21種

暖かくて穏やかな絶好の探鳥日和でした。カラフルなマイ双眼鏡を持って参加してくれた幼い兄妹を含めて、総勢23人のにぎやかな探鳥会になりました。

まずイワツバメを目当てにして、林道手前の集落を散策した後で林道に入り、例年よりも手前から歩き始めました。早々にクマタカが上空から、谷からはミソサザイが大声で、溪流ではカワガラスが歓迎してくれて、道沿いの崖に造られたキセキレイの巣では、少なくとも2羽のヒナが元気にくちばしを突き上げていました。解散間近、杉の木のでっぺんにオオルリが姿を見せて、見送ってくれました。

● 上野森林公園 Two Round 探鳥会

2016年5月1日(日) 6:30～11:30

伊賀市下友生 三重県上野森林公園

共催団体/上野森林公園・三重県環境学習情報センター

前澤昭彦 木村京子 参加者29名(会員5名)
オカヨシガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、バン、オオバン、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計30種

早朝にはキビタキやオオルリの鳴き声が聞けるという情報をもとに、今回は6:30ラウンドと9:00ラウンドの2回公園内を観察した。

早朝ラウンドでは、コサメビタキやエゾムシクイなど予想外の鳥も観察できた。2回目のラウンドでは、四十九池まで行ったのでカモ類も観察できた。しかし、キビタキなどのさえずりは止まってしまう、早朝の探鳥会がすばらしいのを実感した。

早朝ラウンドの参加者のほとんどは、朝食持参で2回目ラウンドにも参加した。

● 鈴鹿川派川探鳥会

2016年5月5日(木・祝) 10:00～11:10

四日市市楠町南五味塚 鈴鹿川派川河口

安藤宣朗 参加者11名(会員10名)

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、シロチドリ、メダイチドリ、チュウジシギ、ホウロクシギ、キアシシギ、イソシギ、トウネン、カモメ、ハシボソガラス、ツバメ、オオヨシキリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、カワラバト 計29種

今日は、こどもの日、快晴に恵まれ広大な伊勢湾の展望が素晴らしい。干潮が10時53分とあって子供連れの家族で賑わっていた。昨年は同時期に開催したが、人出は疎らだったのに今年は多いなぜか？

今日の目玉は、ホウロクシギの3羽、あの長い嘴を干潟に突っ込み採食していたのが印象的だった。メダイチドリやトウネン、キアシシギなどシギ・チドリ類を7種類、カモ類を8種類、その他を合わせて29種類を観察した。

参加者は、ベテランが多い中、唯一とても熱心な中学生の参加があり喜ばしい限りだった。

● 朝明源流探鳥会

2016年5月8日(日) 9:00～15:00

三重郡菰野町千草 朝明源流

辻 秀之 参加者5名(会員5名)

ジュウイチ、ノスリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、エゾムシクイ、メジロ、ミソサザイ、カワガラス、キビタキ、オオルリ 計20種

よく晴れた一日、オオルリやミソサザイのさえずりに耳を澄ませながら朝明溪谷の源流にあたる池の尾(ブナ清水)までのハイキングを楽しみました。

昼食後には登山道を県境稜線方面へ少し足を延ばし、釈迦ヶ岳から北鈴鹿の眺望に歓声が上がりました。

● おはらい町探鳥会

2016年5月8日(日) 6:30～7:40

伊勢市 おはらい町

杉原 豊 中西 章 参加者14名(会員12名)
キジバト、カワウ、アオサギ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、カワラバト 計19種

伊勢市内で最もツバメの営巣が多く、手の届く距離でツバメを観察できる。

当日は第1回と第2回目の子育ての間にあたらしく、ヒナの姿は見られなかった。各店舗で大切に見守られているが、所々巣がとりはられ、きれいにされている箇所が見かけられた。ツバメの他、ムクドリ、イソヒヨドリなど19種、おはらい町の風景に溶けこむ姿が見られた。

● 海蔵川探鳥会

2016年5月10日(火) 開催予定でしたが、

雨天のため中止しました。

● 金剛川河口探鳥会

2016年5月12(木) 9:30～11:45

松阪市高須町 金剛川河口

中村洋子 宮田たつ 参加者13名(会員12名)
キジ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、スズガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、ダイゼン、オグロシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ホウロクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、トウネン、ハマシギ、コアジサシ、アジサシ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カワラバト 計42種

県外から3名の参加者がありました。

満潮の頃だったので、ソーラーパネルやフェンスの上にチュウシャクシギが10羽前後休んでいました。キアシシギ、ソリハシシギは右岸堤防の下、石積みの上にずらりと休んでいるところを観察しました。河口では終り頃、近くまで寄ってくれたのでようやく見ることが出来ました。ダイゼンは胸・腹が黒い夏羽、白い冬羽と両方いました。

● 金沢市普正寺の森宿泊探鳥会

2016年5月15日(日) 8:00～11:00

石川県金沢市 普正寺の森(健民海浜公園)

近藤義孝 参加者30名(会員29名)

キジ、カルガモ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、ツツドリ、シロチドリ、ウミネコ、ミサゴ、アカショウビン、コゲラ、サンショウクイ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メボムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、メジロ、ムクドリ、コムクドリ、マミチャジナイ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、オオルリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ 計36種

天候に恵まれた探鳥会になりました。前日は片野鴨池や河北潟周辺などを観察しました。河北潟周辺では中川富男さんたちにお世話になりました。

普正寺の森では、日本野鳥の会石川の青山代表以下6名の方に案内をしてもらいました。普正寺の森の東側にある犀川の拡幅計画について日本野鳥の会石川の対策会議の方からお話を聞きました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年5月22(日)9:00~11:45

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者12名(会員6名)

キジ(4)、マガモ(2)、カルガモ(10)、キジバト(15)、カワウ(60)、アオサギ(5)、ダイサギ(2)、コサギ(1)、ケリ(15)、コチドリ(1)、イソシギ(2)、モズ(1)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(20)、ツバメ(4)、ウグイス(4)、オオヨシキリ(10)、セッカ(20)、ムクドリ(10)、スズメ(40)、ハクセキレイ(1)、カワラヒワ(3)、ホオジロ(3)、カワラバト(13) 計25種

チュウヒやミサゴが観察できないさみしい探鳥会になりました。観察できた種類も25種とここでは少なかったです。

● 倉骨岬探鳥会

2016年6月5日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年6月26(日)9:00~11:45

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者12名(会員6名)

キジ(1)、カルガモ(30)、ホシハジロ(1)、キジバト(1)、カワウ(100)、アオサギ(15)、ダイサギ(5)、チュウサギ(12)、コサギ(1)、オオバン(1)、ケリ(5)、チュウシャクシギ(1)、イソシギ(3)、コアジサシ(1)、ミサゴ(2)、チュウヒ(1)、カワセミ(2)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(10)、ヒバリ(15)、ツバメ(100)、ヒヨドリ(12)、ウグイス(1)、オオヨシキリ(4)、セッカ(20)、ムクドリ(4)、スズメ(70)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(5)、ホオジロ(4)、カワラバト(50) 計32種

梅雨の晴れ間、チュウヒも一度だけハンティングで姿を見せてくれました。この時期にしては、32種類とたくさんの種類を見ることができました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2016年7月24日(日)9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者20名(会員10名)

マガモ(1)、カルガモ(11)、キジバト(3)、カワウ(63)、ササゴイ(1)、アマサギ(10)、アオサギ(10)、ダイサギ(50)、チュウサギ(3)、コサギ(1)、コチドリ(3)、イソシギ(6)、ウミネコ(1)、カモメ(1)、

ミサゴ(5)、チュウヒ(4)、カワセミ(1)、チョウゲンボウ(1)、ハヤブサ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(5)、ツバメ(200)、ウグイス(1)、オオヨシキリ(1)、セッカ(4)、ムクドリ(20)、スズメ(50)、ハクセキレイ(5)、カワラヒワ(10)、ホオジロ(2)、カワラバト(25) 計33種

真夏にしては、あまり気温が高くありませんでした。

今年生まれたチュウヒの幼鳥2羽を観察できました。ハシブトガラスとチョウゲンボウのバトル、チュウヒがダイサギの群れに向かって突撃など、いろいろ見られました。

編集後記

暑い日が続く。四日市足見川ではサシバの繁殖地が潰されようとしている。メガソーラーである。なぜ、あの場所に作る必要があるのか説明は何もない。住宅地や工場、道路ならば、計画地の位置が重要であり、離れた場所に作っては何もしない。しかし、ソーラー発電は電線さえ来ておればよい。よほど山の中でないかぎり、この条件は簡単にクリアできる。

三重県はソーラー発電優先で、自然環境の破壊には目をつむっている。

残念である。

会報も順調に出版できている。会員がもう少し増えればよいのだが。(M.H.)

しろちどり 89号

2016年9月5日発行

題字: 濱田 稔

表紙絵: 田中豊成

編集: 平井正志

発行所: 日本野鳥の会三重

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印刷: 株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市

森本町野田 3-1